



2017年新年ごあいさつ



九州工業大学 学長
尾家祐二

学内外における様々なネットワークと独自の実行力を
駆使して九州工業大学の質を高める

各構成員の力を、組織の力にするための取組みを推進

各構成員が有するネットワークは財産であり、それを本学のネットワーク力に
活かし、同時に、本学ネットワーク力を各構成員が活用できる施策の展開

教育及び研究活動において、実績を挙げ、変化し続けることができる独自の
実行力を、組織的に支援、推進する施策の展開

対話

- 社会との対話の一環として、記者懇談会を新たに設け、3か月に1度程度の頻度で開催し、公式ホームページの「学長室より」にも内容を掲載
- 経営協議会にて、研究、学生プロジェクトの成果等を教員、学生が直接報告
- 「学長室だより」を約3か月おきに発信し、「学長室より」に掲載

ネットワーク

- 高専（工業高等専門学校）もしくは海外の大学に勤務している本学OBとの共同研究を支援する制度を設け、今年度公募を行い、支援を開始

研究

- 海外大学との研究連携を強化するために、国際共同研究推進を目的とした博士研究員の公募を行い、支援を決定
- 研究成果の発信力を高めるために、リポジトリ登録推進のため係員増員
- 産学連携研究の推進のための「共同研究講座」制度新設
- マレーシアプトラ大学（UPM）との第4回共同シンポジウムを本学で開催

教育

- 四学期制（クォーター制）全学導入、教養教育院の設置（教養教育改革の実施：グローバル教養教育、英語習熟度別教育の設計）、グローバル・エンジニア養成コース受講登録開始
- 産学連携教育審議会開催。学生による海外研修成果発表
- 海外派遣の促進、量的、質的拡大（H26:393名、H27:430名、H28:500名（予定））2016年はErasmus+元年。ロレーヌ大学へ4名の学生を半年派遣

環境

- 男女共同参画推進室を設置し、様々な聞き取り調査を基に、土日休日勤務に関する改善等を決定。事務職員、技術職員の意識等調査アンケート実施

世界に広がるキャンパス

グローバル環境で活躍し続ける人材育成、
世界とともに、世界に出て行う研究

国際

- 学長レベルで連携の継続・発展を確認した大学と組織的連携を強化
- 本年、大学間共同研究支援制度創設、実施
- 海外に国際共同教育研究講座等設置検討

教育

- GCE教育を充実、成果を発信し、産学連携で教育の質保証を確認
- 来年度500名程度(大学院前期1学年定員9割)が海外派遣を経験
- Erasmus+等により、2か月以上滞在者を50名以上へ

研究

- 来年度内に、産学連携による共同研究講座を設置
- 国際的研究拠点形成事業を行い、5件程度を支援
- 合計で、博士研究員10名を採用し、国際共同研究等を強化

対話するキャンパス

様々な対話を通じて、相互理解を深め、改善の機会を作る

社会との対話の一環として報道機関との定期的な懇談の継続実施
各部局での懇談、部局間の懇談など、学内における対話の機会の創出

オープンなキャンパス

本学の教育、研究、社会貢献活動を広く、情報発信し、理解を促進

SNS等の新たなツールの活用

高校生を対象とした説明会等の開催地拡充

誇りを持ち、活力あふれるキャンパス

ワーク・ライフ・バランス推進の視点から、教育・研究環境、就業環境の整備を促進し、すべての職員にとって働きやすい環境づくりを目指す。

本年、休日出勤となる入試監督業務等の分担の改善を実施
本年、在宅勤務制度の導入、実施
構成員の意識等調査に基づく、組織、環境改善の実施

大学は、知らないことを学ぶ場所であり、新たな知を生み出す場所である。学生だけでなく、職員を含めて、学ぶ意欲にあふれ、知恵を生み出す場でありたい

学ぶ意欲、知恵を生み出す能力が大学の原動力

知を繋ぎ、知で繋ぎ続ける九州工業大学

繋がり、広がる九州工業大学

皆様にとって、本年が、多くの良き機会に恵まれ、
実り多き年でありますようお祈りします。
今年もよろしくお願い致します。